

諏訪地方社保協ニュース

『広がる子どもの貧困、どうすればいいの?!』 記念講演に50人が参集

第5回総会開催

1年間の活動を報告

定期総会は一〇月二日夜、諏訪市文化センターで開催されました。一年間の活動報告では「秋のキヤラバン行動」の特徴と成果について、「子ども医療費窓口無料化」が始まるにあたって自治体の方向性について意見交換し、三〇〇円〜五〇〇円の自己負担金の廃止を要望。国保の県単位化による国保料(税)の大幅アップを抑えるために激変緩和措置を十分に活かすこと、住民が生活に困らずに払える国保料(税)の設定を要望。介護保険制度改定による総合事業が始まって支援1・2の方々の状況はどうなっているか、利用者に配慮したきめ細かい対策を要望した。懇談の結果、各市町村の姿勢に大きな違いがあることが判明しました。

新しい闘う方針を確認

来年度方針では「県に対して『福祉医療給付制度』について窓口完全無料化や対象範囲の拡大、障がい者の窓口無

料化などを引き続き求めていくこと。また県下九町村(原村を含む)が実施した自己負担なしの完全窓口無料化をもっと多くの市町村に広げること。今年四月からはじまった『国保の県単位化』で諏訪六市町村の現状と将来の保険料はどうなっていくのか、わたしたちはどのように運動をすすめていくのか。『介護保険制度改定』による新たな問題への対応。生活保護基準が再び引き下げられたことへの抗議と闘いについてなどが報告され方針として採択されました。全体として「総会は暴走する安倍自公政権による人権を無視した社会保障解体攻撃と改憲を許さない運動を全国や県社保協、地域の諸団体・個人と団結してすすめていくこと」を確認し合うものとなりました。



最後に二〇一八年度の役員を選出しました。

今回選出された

新常任幹事のみなさん

会 長	毛利 正道
副 会 長	猿橋 広子
同 上	浜 恒弘
同 上	今井 進
同 上	村田 洋一
事務局 長	酒井 暁史
事務局 次長	布施谷 真吾
同 上	

子どもの貧困問題解決は

総会に先立ち行われた記念講演は今までとは少し趣を変えて、子育て世代や地域の皆さんにも関心が高い「子どもの貧困」に焦点をあて、立教大学名誉教授の浅井春夫氏に講師をお願いしました。

講演でははじめに「子どもの問題に関心をもっているか」を問われ、子どもの貧困としてどんな出来事が身近に起こっているか浅井氏の著書『子どもの貧困』解決への道(次号にて詳しく紹介)の中にも出てくる事例について紹介。

「夏休み明けに一〇kgも痩せて登校した中学生」「虫



講演する浅井春夫氏

歯二〇本で治療がされていない子ども」「教材費を立て替えている教員」など深刻な状況がありました。その上で今日の講演の主題として①子どもの貧困とは何か②調査方法と解決のターゲット③乳幼児の貧困の特徴とその解決策④学校改革と連結した貧困対策⑤子どもの貧困改善のための政策視点⑥子どもの貧困対策条例の具体案の6点について丁寧にお話しいただきました。現状から対策、解決策について「国や自治体のやるべきこと、そして「私たちの地域」から「私たち大人がやれること」は何か具体的な提起がありました。

講演の内容については次号で詳細に掲載します。